

第41回 北宋の滅亡と南宋の成立

1 王安石の改革

- ・遼と西夏へ贈る銀と絹、増大する役人、国境を守るために雇われた傭兵などのため、宋は深刻な財政難となっていた。

◆ () (在位 1067～1085 年)

- ・ () を宰相に起用し、財政再建と富国強兵を進めようとした。

→王安石は、() と呼ばれる改革を行ったため、これを王安石の改革という。



神宗

19 歳で即位した若き皇帝。王安石を登用して改革を進めるが、旧法党の反発によって結局解任したため、改革は挫折してしまった。



王安石

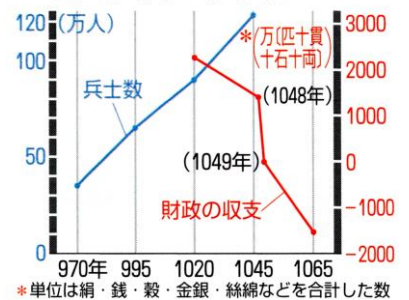
VS.



司馬光

王安石は唐宋八大家のひとりであり、文章家としても有名である。一方の司馬光は歴史家として有名。両者は天敵同士だが、実力を認めあってもいいらしい。

財政支出の赤字化



<王安石の新法>

- () … 貧しい農民に、低金利で金や穀物を貸した。
- () … 政府が各地で特産物を買ひ、不足している場所で売った。
- () … 中小商人に、低金利で金を貸した。
- () … 労役免除の代わりに金を払わせ、その金で希望者を雇った。
※労役の負担を軽減し没落を防ぐため。
- () … 農耕が暇な時に、農民に軍事訓練を行わせた。
※軍隊の強化と軍事費の節約のため。
- () … 政府の馬を、平和な時は農耕に使わせ戦時には軍馬とした。
方田均税法 … 土地に等級をつけて、それに応じて税金を課した。

- ・しかし王安石の改革は、地主や大商人の利益をおさえるものであった。
- ・また国家が商人のように経済活動をすることは、儒学者などからも批判があった。
→ () と () の対立が起こり、政治は混乱してしまった。

2 金の成立

- ・中国東北部では、ツングース系の () が力をつけていた。
→1115 年、女真の一部族である完顔部が、金を建国した。

☆ ()

都…燕京 (中都) ※現在の北京

◆ () (太祖) (在位 1115～1123 年)

- ・1115 年、完顔部の首長で、女真族を統一して金を建国した。



完顔阿骨打

<金の政治と社会>

- ・金は、（ ）という独特の軍事行政制度を行った。
→支配下の漢民族には宋の州県制を用いて、二重統治体制をとっていた。
- ・契丹文字と漢字をもとにした（ ）を用いた。
- ・禅宗の影響を受けた道教の一派である（ ）が、王重陽によって創始された。



徽宗
文化人としては超一流だが、皇帝としては三流である。

3 北宋の崩壊と南宋の成立

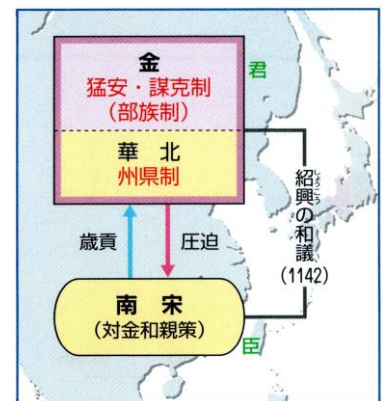
- ◆（ ）（在位 1100～1125 年）
 - ・1120 年、宋は金とともに遼へ侵攻し、1125 年、金が遼を滅ぼした。
→遼の王族である（ ）は、中央アジアに逃れてカラハン朝を倒し（ ）を建国した。
- ◆（ ）（在位 1125～1127 年）
 - ・1127 年、宋が約束を守らなかったため、金は宋に侵入して開封を占領し、皇帝の欽宗と上皇の徽宗を捕えて宋を滅ぼした（北宋の滅亡）。
※この事件を（ ）という。



欽宗
30 年も捕虜のまま、ついに帰れなかった。

- ☆（ ）（1127～1279 年）
都…（ ） ※現在の（ ）
- ◆（ ）（在位 1127～1162 年）

- ・靖康の変の後、欽宗の弟が江南に逃れて南宋を建国した。
→江南の開発がさらに進むこととなった。



<主戦派と和平派の対立>

- ・南宋では、将軍の（ ）ら主戦派と宰相の（ ）ら和平派が対立した。
→秦檜は、岳飛を無実の罪を着せて謀殺し、主戦派を押さえ込んだ。
→1142 年、両国は（ ）を境に紹興の和議を結び、南宋が金に臣下の礼をとり銀と絹を贈ることで和平がもたらされた。



岳飛
悲劇のヒーローであり、現在でも英雄的な人気がある。杭州にある岳飛の墓には、現在も参拝者が絶えない。私も行きました。

VS.



秦檜
一方で、南宋に和平をもたらした秦檜は、売国奴とされている。岳飛の墓の前には、縛られてひざまずく秦檜の像が置かれている。

